



# 「ぼくたちの大切な場所」

## ～なぎさ公園小学校のビオトープ～

なぎさ公園小学校  
教諭 戸倉 明子

なぎさ公園小学校の教育—なぎさstyleには1、季節感を味わう。2、本物に触れる。3、五感を養う。4、文化を育む。という特色があります。このなぎさstyleを最も実感できる場所、それがビオトープです。

### 「季節を感じる」

グラウンドの西の端の一角になぎさ公園小学校のビオトープがあります。

春。入学したばかりの1年生がビオトープの中を覗き込んでいます。水温が少しずつ上がってくると、メダカが泳ぎ始めるからです。暖かくなるにつれ、シュレーゲルアオガエルの合唱も聞こえてきます。

夏。ビオトープの水面にピンク色の羽毛のようなネムノキの花が浮かぶ時期になると、樹々の葉が生い茂り、クマゼミの鳴き声がうるさいくらいに響き渡ります。

秋。ビオトープも実りの季節です。ナツメ、ザクロのような大きな実からエノコログサ、カヤツリグサのような小さな実まで、樹々や草が種をつけ、それをついばみに来る野鳥が集まります。

冬。カサコソと落ち葉を蹴散らしながら走り回るのが楽しい季節です。落ち葉の下ではアカハライモリやトノサマガエルが眠っています。



### 「本物にふれる体験のために～みんなのビオトープ～」

開校以来、子どもたちの大好きなビオトープは学校の「宝物」であったものの、維持管理は組織的に行われていたわけではありませんでした。循環しているはずの水が止まってしまったり、水草が水面一面に広がってしまったりトラブルが続きました。そこで、2017年度より校内の分掌で環境美化部がビオトープの維持管理も担当することになりました。部を担当していた私は、一部の人間が関わることで完結するのではなく、たくさんの方が関わるビオトープを目指すことで「みんなのビオトープ」になるのではないかと考えました。



この年から春と秋に保護者の方に呼びかけ、春はビオトープの中の小径の流出してしまった土を盛り直したり、秋は枯れたあとのガマを刈って除去したりとボランティアで作業をしていただいています。

「子どもたちがビオトープが大好きで、少しでもきれいになればと思います。」「大人でもいろいろな作業ができ、楽しみながら参加できるのがとても嬉しいです。」来ていただいた保護者の言葉です。作業した方

は、後日、自分の担当した場所をこっそり覗きにきたり、「木の調子はどうですか?」と気かけたり、愛着を持ってくださるようです。

5、6年生の委員会の児童にも、年に数回、ビオトープの整備を頼むことにしました。「くさーい。」「ドロドロでいやだ。」と言いつつも、繁茂しすぎた水草を除去して、堆肥置き場まで担いで運ぶ子どもたちの姿は頼もしい限りです。

環境整備員の方々にも日々の水の様子を確認して下さっています。授業で使用する時には水を減らしたり、茂り過ぎる雑草を抜いたり、大いに協力していただいています。



また、親子で参加できる自然遊び「いきいき生き物探し」等の企画をなぎさ会の遊学塾として実施しています。毎回、非常に多くの参加希望があり、昨年は大人、子ども合わせて年間100人程の方に参加していただきました。池の中で生きものを探したり、ユズを収穫してジャムを作ったり、大人も子どもも目いっぱいビオトープを楽しむ時間になりました。



### 「休憩時間のビオトープ」

子どもたちは、ビオトープのことを本当によく知っています。「先生、知ってる?あそこに〇〇があるよ。」カエルの卵を見つけるのも、木のてっぺんにできたカラスの巣を見つけるのもいつも子どもの方が先です。

「先生、今日はわたしのひみつ基地に来て。」と手を引かれていくと、藪の中の木の根元にシラカシのドングリがたくさん置いてありました。自分の大切な場所へ、休憩ごとに走って行く小さな背中には誇らしげです。



### 「五感を養う学びの場」

1年生と2年生は、不思議緑の時間に「ビオトープ探検」があります。この授業では水の中を自由に歩き、生きも

のを探し回ります。高学年の子どもたちが「あの授業楽しかったなあ。またやりたいなあ。」とよく話してくれる人気の時間です。この授業の前に「ビオトープには何が住んでいると思う?」と聞くと「さかな」と答える子どもがたくさんいます。実際に池の中を歩き、生き物を捕まえて観察すると「メダカ」に変わるから不思議です。

4年生の理科の授業では、四季による自然の特徴を学ぶため、自分の木を1本決めて定点観察を行います。落葉樹に年間の途中で変化があるのはもちろんですが、常緑樹であっても季節ごとに葉の色が変わったり、虫食いの葉が増えたりと様々な変化が起きることに驚かされます。

2月に開催されるなぎさ祭では、委員会の児童が「ビオトープツアー」を行い、一般のお客様をビオトープに案内します。冬に行われるため、春から夏に咲く花の様子を写真で紹介したり、葉をちぎって香りを楽しんでもらったり、担当になった児童それぞれの趣向を凝らしたツアーが展開されます。一昨年のツアーで、6年生の児童の

「ぼくたちの大切な場所を紹介できて良かったです。参加してくれてありがとうございました。」と言う挨拶を聞いた時には、胸がいっぱいになりました。



### 「なぎさの文化を育む」

「1年中子どもたちの弾んだ声が聞こえる場所にしたい」「安全で楽しい場所にしたい」との思いで、環境美化部でビオトープの維持、管理を始めて3年目になりました。これからも、多くの方々の協力のもと、ビオトープが「ぼくたちの大切な場所」であり続けるよう、なぎさの文化を育んでいきたいと思っています。